

令和 7 年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果について【小学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和 7 年度「とちぎっ子学習状況調査」における本市立小学校児童の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「とちぎっ子学習状況調査」について

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善（学力向上 P D C A）サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日・調査対象 令和 7 年 4 月 1 7 日（木） 第 4 学年、第 5 学年

3 調査内容

（1） 教科に関する調査

- ① 調査教科 国語・算数・理科
- ② 出題範囲 調査する学年の前学年までの学習内容
- ③ 出題内容 学習指導要領に基づき、教科の目標及び内容に即した知識及び技能、思考力・判断力・表現力等に関わる内容



（2） 質問調査

※ I C T 端末を用いたオンライン方式にて実施

- ① 児童質問調査 学習意欲、学習方法、学習環境、家庭学習等に関すること
- ② 学校質問調査 指導に関する取組や学習環境等に関すること 等

4 本市の参加状況

- （1） 学校数 宇都宮市立小学校 69 校（69 校中）
- （2） 児童数 第 4 学年 国語 4,031 人 算数 4,035 人 理科 4,044 人
第 5 学年 国語 4,177 人 算数 4,176 人 理科 4,181 人

5 留意事項

（1） 調査結果について

本調査は、対象となる学年や実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

（2） 教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を示すために、教科全体及びカテゴリ別の平均正答率、正答率度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、領域等ごとに良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
※「良好な状況が見られるもの」と「課題が見られるもの」は、正答率が県平均より高い（低い）設問などを基に考察した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを中心に記載した。

（3） 質問調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び県との比較において本市の特徴が見られる質問を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、指導の工夫・改善のポイントを記載した。

1 小学校第4学年 国語

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	68.3	68.3	0.0

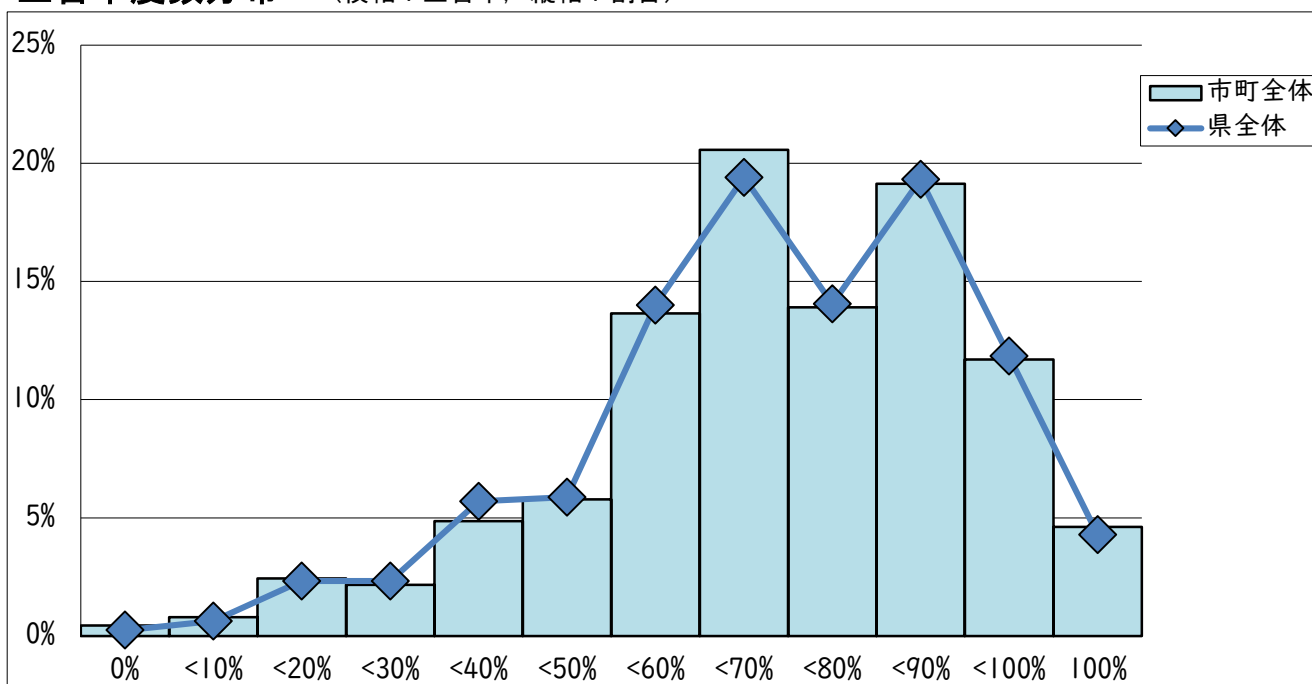
カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.6	76.9	1.7
	情報の扱い方に関する事項	72.2	73.1	△0.9
	我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	81.0	81.1	△0.1
	書くこと	47.2	52.8	△5.6
	読むこと	60.5	59.3	1.2
観点別	知識・技能	78.0	76.5	1.5
	思考・判断・表現	62.3	63.1	△0.8

正答率度数分布

（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 1.7 ポイント)

- 漢字の読み書きに関する設問の正答率は 79.5% で、県平均を 3.1 ポイント上回る。漢字を正しく読んだり、書いたりすることに良好な状況が見られる。

情報の扱い方に関する事項 (県平均との差 $\Delta 0.9$ ポイント)

- 国語辞典に掲載されている順番として正しいものを選ぶ設問の正答率は 72.2% で、県平均を 0.9 ポイント下回る。国語辞典の使い方の理解に課題が見られる。

話すこと・聞くこと (県平均との差 $\Delta 0.1$ ポイント)

- 司会者の発言として適切なものを選ぶ設問の正答率は 70.9% で、県平均を 1.6 ポイント上回る。話合いの内容を基に考えをまとめることに良好な状況が見られる。
- 自分の考えとその理由を書く設問の正答率は 80.8% で、県平均を 1.2 ポイント下回る。理由を挙げながら話すことに課題が見られる。

書くこと (県平均との差 $\Delta 5.6$ ポイント)

- 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くことの正答率は 43.8% で、県平均を 5.8 ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。
- 自分の考えとそれを支える理由を書くことの正答率は 50.3% で、県平均を 5.4 ポイント下回る。理由を明確にして文章を書くことに課題が見られる。

読むこと (県平均との差 1.2 ポイント)

- 物語を読んで人物の行動の理由や気持ちを捉える設問の正答率は 78.6% で、県平均を 1.6 ポイント上回る。叙述を基に、人物や場面の様子を適切に捉えることに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

情報の扱い方に関する事項

文章を正確に理解するために、国語辞典を引くことは重要である。そのため、国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解させるとともに、必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような環境をつくっておくことが必要である。その上で、国語辞典に示される意味について吟味、検討し、文章中の意味として適切なものを捉えられるように指導することが大切である。

書くこと

文章を書く設問では、指定された長さで書くことと、二つの段落に分けて書くことが条件として示された。具体的には、一段落目で自分の立場を明確にすること、二段落目にその考えを支える理由を書くことが求められた。学習指導要領の、第3学年及び第4学年の「書くこと」の指導事項には、内容のまとまりで段落をつくることや、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことが示されている。調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を通して、段落の役割や段落相互の関係に注意して構成を考える学習や、理由や事例を記述する際の表現（「なぜなら～」 「例えば～」等）を用いて書く学習が必要である。

2 小学校第4学年 算数

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	55.9	55.4	0.5

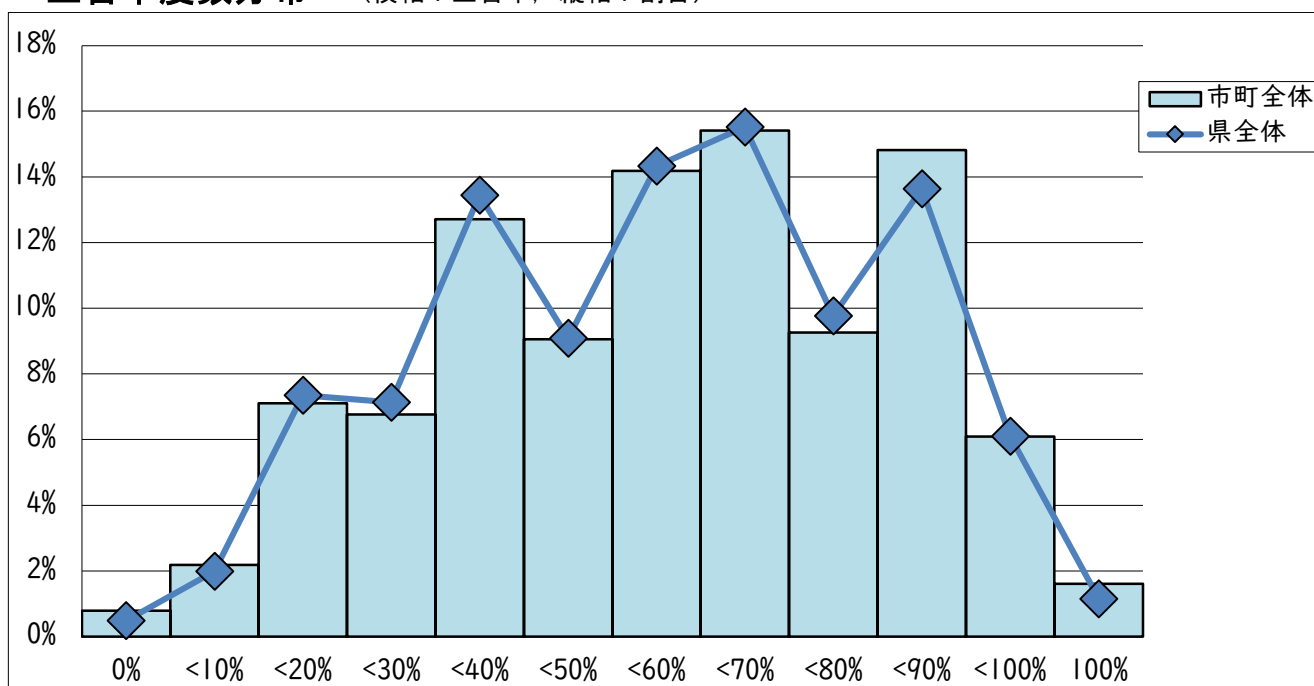
カテゴリー別平均正答率

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	数と計算	57.4	56.9	0.5
	図形	58.7	60.1	△1.4
	測定	48.1	45.7	2.4
	データの活用	54.9	54.3	0.6
観点別	知識・技能	56.6	56.2	0.4
	思考・判断・表現	54.5	53.8	0.7

正答率度数分布

（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と計算 (県平均との差 0.5 ポイント)

- 数量の関係について□を使って表された正しい図を選択する設問の正答率は 81.0%であり、県平均を 0.7 ポイント上回る。問題場面から数量関係を捉え、分からない数を□として図に表すことに良好な状況が見られる。
- 余りの考えをもとに計算の間違いを説明する設問の正答率は 25.0%であり、県平均を 0.8 ポイント下回る。また、無解答率が 34.4%であり、県平均を 2.8 ポイント上回る。あまりの意味を理解し、わる数とあまりの関係を読み取り、判断の根拠となることを説明することに課題が見られる。

図形 (県平均との差 Δ 1.4 ポイント)

- 球を平面で切ったときの切り口の形を選ぶ設問の正答率は 69.7%であり、県平均を 4.3 ポイント下回る。球の切断面についての理解に課題が見られる。

測定 (県平均との差 2.4 ポイント)

- 単位をそろえて2つの道のりを比較する設問の正答率は、53.3%であり県平均を 1.6 ポイント上回る。長さの単位について理解し、2つの道のりを比べ説明することに良好な状況が見られる。

データの活用 (県平均との差 0.6 ポイント)

- 二次元の表の合計欄に当てはまる数を答える設問の正答率は 61.0%であり、県平均を 1.3 ポイント上回る。二つの観点からデータを分類整理し、二次元表の読み方や表し方を理解することに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

数と計算

計算の指導においては、筆算での計算の仕方を形式的に教えるのではなく、数の仕組みや計算の意味に基づいて考えさせることが大切である。その際に、計算の仕方を主体的に考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだし、その性質を計算の工夫や確かめに活用したりするとともに、日常場面に即してより適切な答えを考えるなど日常生活に生かすことが重要である。

図形

円と球の学習では、具体物の観察、作図などの活動を通して、概念や性質を理解することが必要である。球については平面で切ると切り口は全て円になる、二等分した切り口が最大で、その半径と直径が球の半径と直径になる等の特徴について、模型の操作や観察など実感を伴う活動を取り入れ、円の学習と結び付けながら球の性質を捉えさせることが有効である。

3 小学校第4学年 理科

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	70.5	68.9	1.6

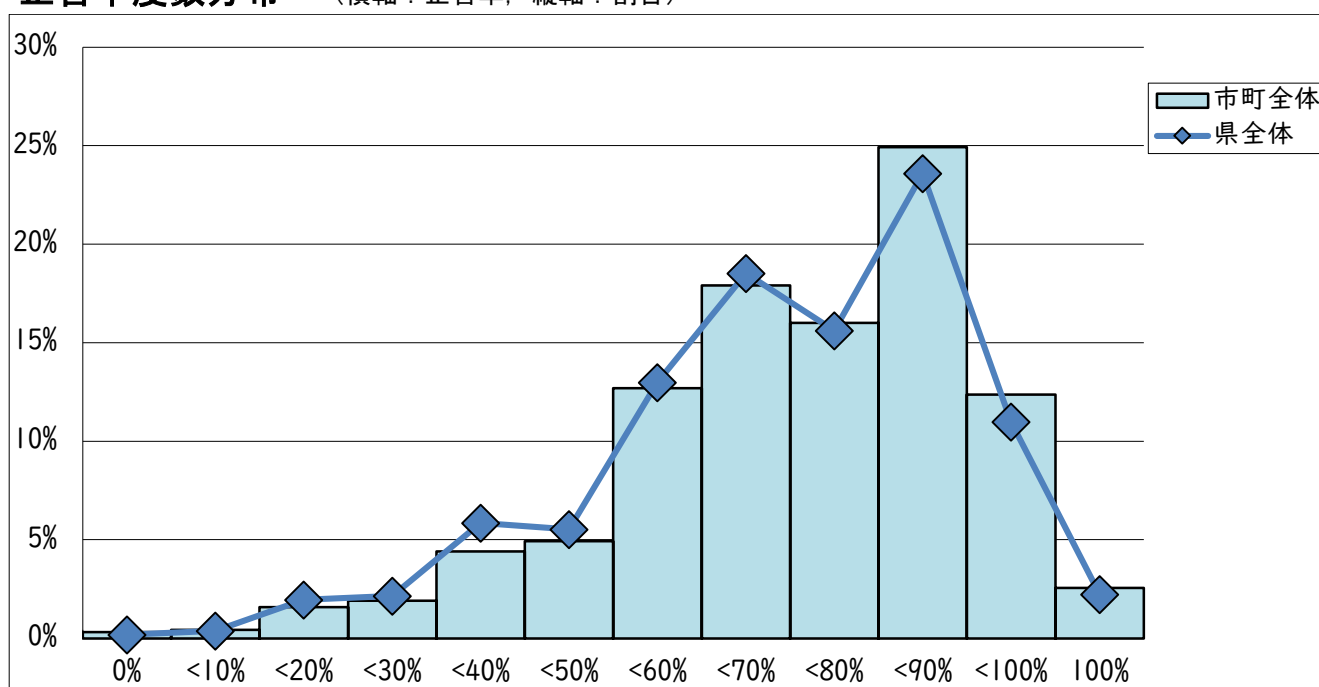
カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	a-b
領域等別	「エネルギー」を柱とする領域	71.4	69.1	2.3
	「粒子」を柱とする領域	59.3	58.3	1.0
	「生命」を柱とする領域	74.5	73.8	0.7
	「地球」を柱とする領域	72.0	70.1	1.9
観点別	知識・技能	72.5	70.9	1.6
	思考・判断・表現	68.8	67.1	1.7

正答率度数分布

（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

「エネルギー」を柱とする領域（県平均との差 2.3 ポイント）

- 風が強くなるとともに動かすはたらきが大きくなることについての設問の正答率は 74.4%で、県平均を 5.0 ポイント上回る。実験結果から、風の強さと物を動かすはたらきの関係について解釈し、表現することに良好な状況が見られる。

「粒子」を柱とする領域（県平均との差 1.0 ポイント）

- 粘土の重さを測る実験の様子を示した図を基に、実験結果が異なった理由を答える設問の正答率は 85.0%で、県平均を 1.6 ポイント上回る。重さを比較しながら調べる際に、秤を用いて正しく調べる技能に良好な状況が見られる。
- 粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿う結果を選ぶ設問の正答率は 27.0%で、教科全体の中で最も低い。物の形の違いによる重さの変化について、予想を基に実験結果を思考・判断することに課題が見られる。

「生命」を柱とする領域（県平均との差 0.7 ポイント）

- モンシロチョウの卵と幼虫について適切に説明した文章を選ぶ設問の正答率は 91.2%で、県平均を 1.9 ポイント上回る。昆虫の育ち方の理解について良好な状況が見られる。
- ホウセンカが育つ順番に並び替える設問の正答率は 61.7%で県平均を 1.4 ポイント下回る。植物の成長の過程の理解について課題が見られる。

「地球」を柱とする領域（県平均との差 1.9 ポイント）

- 太陽と日陰の位置関係と、日影ができる方角を選ぶ設問の正答率は 79.3%で、県平均を 1.5 ポイント上回る。太陽と日陰の位置関係と、建物によって日光が遮られてできた影の位置を関連付けて思考・判断することに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

「粒子」を柱とする領域

物の形の違いによる重さの変化については、身の回りにある形を広げたりいくつかに分けて丸めたりするなどして形を変え、手ごたえなどの体感を基に、電子天秤を用いて重さを数値化して、重さを比較しながら調べることが大切である。問題解決の活動の中で、互いの考えを尊重しながら話し合い、既にもっている自然の事物・現象についての考えを柔軟に変容させていくことも必要である。提示された予想を正確に把握するために、イメージ図等を用いて予想内容を視覚化する等、予想が正しい場合の結果を考え、説明できるよう指導していくことが望まれる。

「生命」を柱とする領域

植物の成長の過程については、複数の種類の植物の成長の過程を比較しながら、成長による体の変化を調べることが大切である。これらの活動を通して、差異点や共通点を基に、植物の育ち方についての問題を見だし、表現するとともに、植物の育ち方には、種子から発芽し子葉が出て、葉がしげり、花が咲き、果実がなって種子ができた後に個体は枯死するという、一定の順序があることを捉えられるよう指導していくことが望まれる。

4 小学校第5学年 国語

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	65.3	65.6	△0.3

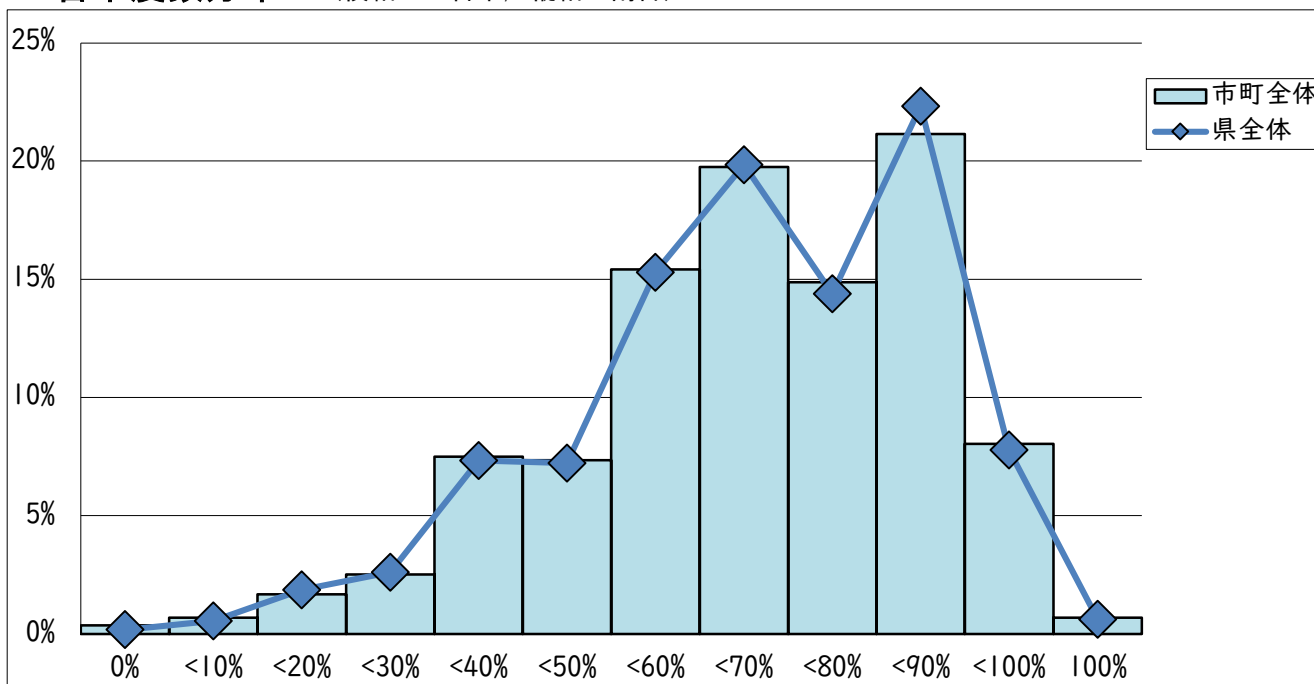
カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.7	64.1	0.6
	情報の扱い方に関する事項			
	我が国の言語文化に関する事項	83.1	81.9	1.2
	話すこと・聞くこと	83.3	83.4	△0.1
	書くこと	42.8	48.2	△5.4
	読むこと	66.1	65.1	1.0
観点別	知識・技能	66.5	65.9	0.6
	思考・判断・表現	64.6	65.5	△0.9

正答率度数分布

（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (県平均との差 0.6 ポイント)

- 文を読み、気持ちを表す語として適切な語を選ぶ設問の正答率は 93.0%で、県平均を 1.8 ポイント上回る。気持ちを表す語を文章の中で使うことに良好な状況が見られる。
- 被修飾語を選ぶ設問の正答率は 12.4%で、県平均を 2.3 ポイント下回る。文の中における連用修飾の関係や被修飾語を捉えることに課題が見られる。

我が国の言語文化に関する事項 (県平均との差 1.2 ポイント)

- 正しいことわざの使い方を選ぶ設問の正答率は 83.1%で、県平均を 1.2 ポイント上回る。慣用句の意味を理解し、使うことに良好な状況が見られる。

話すこと・聞くこと (県平均との差 Δ0.1 ポイント)

- 理由を挙げながら自分の考えをまとめる設問の正答率は 85.8%で、県平均を 0.9 ポイント上回る。話合いの目的に合わせて考えをまとめることに良好な状況が見られる。
- 参加者の発言を踏まえて司会者が発言すべき内容を書く設問の正答率は 77.1%で、県平均と同等であるが、「話すこと・聞くこと」の領域の中では最も正答率が低い。話合いの内容から考えをまとめることに課題が見られる。

書くこと (県平均との差 Δ5.4 ポイント)

- 指定された長さや二段落構成という条件で文章を書くことの正答率は 44.4%で、県平均を 6.7 ポイント下回る。段落の役割を理解し、段落ごとに必要な情報を書き表すことに課題が見られる。
- 自分の考えを書くことの正答率は 46.0%で、県平均を 6.3 ポイント下回る。資料から読み取ったことを基に、自分の考えを明確にして文章を書くことに課題が見られる。

読むこと (県平均との差 1.0 ポイント)

- 登場人物の心情の変化として適切なものを選ぶ設問の正答率は 83.5%で、県平均を 1.9 ポイント上回る。人物の心情の変化を具体的に想像することに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

言葉の特徴や使い方に関する事項

修飾と被修飾との関係を理解する学習では、主語と述語が照応することを想起させ、修飾語がどこに係るのかという修飾と被修飾との関係に気を付けて、文の構成を理解する必要がある。そのために、「詳しく説明している言葉（修飾語）はどれか」、「どの言葉を詳しく説明（修飾）しているか」などと、修飾と被修飾の両面から発問するとともに、修飾語と被修飾語の位置関係が近い文と遠い文を例示するなど、多様な例文により意図的に発問することが有効である。また、児童が作文を書く場面においても、文や文章の内容の理解だけでなく、語句相互の関係に気を付けて文を組み立てることを意識することができるよう指導することが大切である。

書くこと

文章を書く設問では、指定された長さで書くことと、二つの段落に分けて書くことが条件として示された。具体的には、一段落目で資料から読み取ったことを書くこと、二段落目に資料から読み取ったことを基に自分の考えを書くことが求められた。学習指導要領の、第3学年及び第4学年の「書くこと」の指導事項には、内容のまとまりで段落をつくることや、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことが示されている。調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動を通して、段落の役割や段落相互の関係に注意して構成を考える学習や、理由や事例を踏まえて自分の考えを書く学習が必要である。

5 小学校第5学年 算数

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	64.7	64.6	0.1

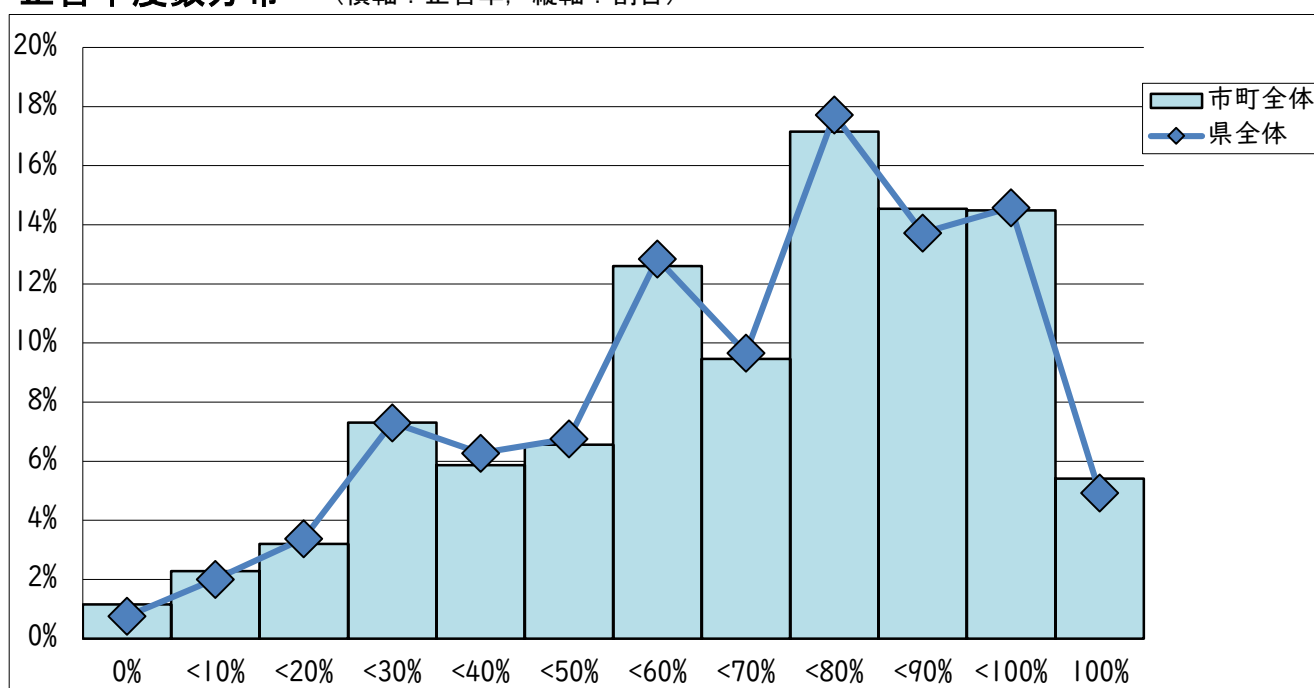
カテゴリー別平均正答率

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	差 a-b
領域等別	数と計算	63.0	63.3	△0.3
	図形	69.2	68.3	0.9
	変化と関係	54.8	55.0	△0.2
	データの活用	73.1	72.3	0.8
観点別	知識・技能	62.3	62.1	0.2
	思考・判断・表現	68.7	68.7	0.0

正答率度数分布

（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と計算 (県平均との差 $\Delta 0.3$ ポイント)

- 式の意味を表したものとして、正しい文章を選ぶ設問の正答率は 74.7%であり、県平均と同等である。式の意味を捉えることに良好な状況が見られる。
- 2つの小数について、もとにする小数のいくつ分かで大きさを比べる設問の正答率は 50.3%であり、県平均を 4.3 ポイント下回る。小数の仕組みを理解し、もとにする数を変えて相対的な大きさを捉え、大小関係を比較することに課題が見られる。また、整数と小数の減法・乗法の計算をする設問の正答率は、県平均を 0.3～1.4 ポイント下回り、小数を用いた筆算などの技能の確実な定着に課題が見られる。

図形 (県平均との差 0.9 ポイント)

- 平面上にある点の位置の表し方から、もとにする位置を選ぶ設問の正答率は 65.4%であり、県平均を 2.8 ポイント上回る。ものの位置の表し方を理解し、基準となる位置を考えることに良好な状況が見られる。

変化と関係 (県平均との差 $\Delta 0.2$ ポイント)

- 二人の年齢差の関係を式に表す設問の正答率は 49.0%であり、県平均より 1.8 ポイント下回る。伴って変わる2つの数量の関係を読み取り、式に表すことに課題が見られる。

データの活用 (県平均との差 0.8 ポイント)

- 飼っているペットについて調べた結果を二次元表に表す設問の正答率は 74.3%であり、県平均を 2.0 ポイント上回る。二次元表の意味を理解し、必要な情報を読み取ることに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

数と計算

小数の仕組みとその計算の学習においては、小数が整数と同じ仕組みで表されていることの理解を深めるとともに、ある位の単位に着目してそのいくつ分と見る相対的な大きさについて考察することが必要である。計算の仕方を考える際に、乗法における積の小数点の位置や除法における商の小数点の位置などについて、整数の場合と比べながら考えられるよう、数を構成する単位に着目させ、指導することが大切である。

変化と関係

変化と関係の学習では、日常生活の具体的な場面において、表や式、グラフを用いて変化の様子を表したり、変化の特徴を読み取ったりすることができるようにするとともに、伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する活動を充実させることが重要である。

6 小学校第5学年 理科

平均正答率

(%)

	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立） b	差 a - b
教科全体	62.2	61.6	0.6

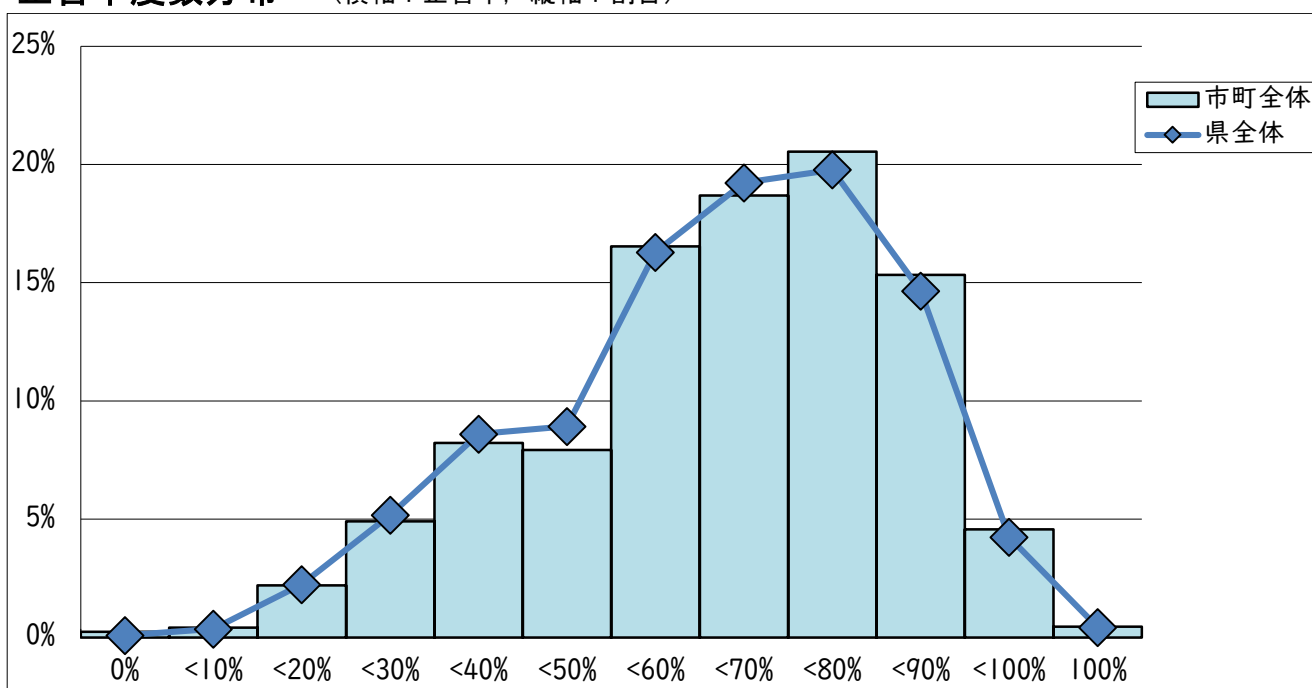
カテゴリー別集計結果

(%)

		宇都宮市 a	栃木県 b	a-b
領域等別	「エネルギー」を柱とする領域	64.3	63.2	1.1
	「粒子」を柱とする領域	55.4	55.1	0.3
	「生命」を柱とする領域	80.1	79.3	0.8
	「地球」を柱とする領域	56.4	55.8	0.6
観点別	知識・技能	66.0	65.3	0.7
	思考・判断・表現	57.9	57.4	0.5

正答率度数分布

（横軸：正答率，縦軸：割合）



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

「エネルギー」を柱とする領域 (県平均との差 1.1 ポイント)

- 回路の乾電池の向きを入れ替えた際の、簡易検流計の針のふれ方を示した図を選ぶ設問の正答率は 65.5% で、県平均を 2.4 ポイント上回る。検流計の仕組みや、乾電池のつなぎ方を変えた時の電流の向きや大きさについての理解に良好な状況が見られる。

「粒子」を柱とする領域 (県平均との差 0.3 ポイント)

- ピストンを使って閉じ込めた空気を圧した場合の手応えの変化を答えることについての設問の正答率は 91.4% で、県平均を 0.9 ポイント上回る。閉じ込めた空気を圧した時の押し返す力についての理解に良好な状況が見られる。
- 湯気について適切に述べた文章を選ぶ設問の正答率は 28.8% で、県平均を 0.8 ポイント下回る。湯気について理解することに課題が見られる。

「生命」を柱とする領域 (県平均との差 0.8 ポイント)

- オオカマキリとトノサマガエルの越冬について適切に比較してまとめた考察を選ぶ設問の正答率は 88.8% で、県平均を 1.5 ポイント上回る。動物の越冬について調べた結果を基に、考察を思考することに良好な状況が見られる。

「地球」を柱とする領域 (県平均との差 0.6 ポイント)

- 雨の日の気温を示したグラフを選び、1 日の気温の変化に着目して選んだ理由を答える設問の正答率は 65.7% で、県平均を 1.8 ポイント上回る。雨の時の気温の変化を表したグラフを指摘し、選んだ理由を記述することに良好な状況が見られる。
- 窓に結露が発生する理由と、結露の水滴がつく場所について述べた文章にあてはまる語句を選ぶ設問の正答率は 30.5% で、県平均を 1.1 ポイント下回る。空気中の水蒸気が冷やされると結露して液体の水になることを、窓に付いた水滴と関連付けて思考することに課題が見られる。

指導の工夫・改善

「粒子」を柱とする領域

水の性質についての学習では、水の状態に着目して、温度の変化と関係付けて、水の状態の変化を調べることが大切である。既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するとともに、水は温度によって水蒸気や氷に変わることが捉えられるよう、状態が変化することを図や絵を用いて表現したり、水の性質について考えたり、説明したりする活動の充実を図ることが望まれる。

「地球」を柱とする領域

自然界の水の様子についての学習では、冷えた物を常温の空気中に置くとその表面に水滴が付く現象などから空気中には蒸発した水が水蒸気として存在していること等、日常生活との関連した現象を取り上げることが考えられる。

7 小学校質問紙調査

【児童質問調査】

調査結果（全 94 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、4・5年生ともに県平均と3ポイント以上差があり本市児童の特徴を表すものを取り上げた。（教科等別の学習に関する設問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合			
		4年生		5年生	
		宇都宮市	県平均との差	宇都宮市	県平均との差
1	授業を集中して受けている。	91.1%	△0.2	91.8%	△0.5
2	学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。	71.1%	△3.6	70.6%	△3.3
3	勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある。	84.0%	1.7	85.5%	1.8
4	授業では、授業の目標（めあて・ねらい）が示されている。	89.4%	△0.6	93.6%	0.5
5	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている。	87.7%	△1.7	92.3%	△1.2
6	授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。	75.9%	△2.1	79.6%	△2.2
7	グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。	78.5%	1.4	78.2%	0.2
8	クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	75.5%	0.0	78.5%	0.2
9	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	51.4%	0.7	49.6%	1.9
10	授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。	34.7%	△1.3	37.1%	△1.2
11	家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	71.7%	△2.6	73.1%	△1.9
12	家で、学校の授業の復習をしている。	59.1%	△5.9	62.1%	△4.7
13	家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。	61.9%	△0.8	61.4%	1.6
14	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1日当たりの勉強時間（学習塾や家庭教師を含む） ※1時間以上	38.0%	△4.3	50.0%	0.0
15	自分には、よいところがあると思う。	87.4%	2.8	83.6%	0.4
16	地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。	72.4%	0.8	75.2%	2.5
17	先生は学習のことについてほめてくれる。	90.8%	1.9	90.6%	1.4
18	家的人是、ほめてもらいたいことをほめてくれる。	88.3%	0.5	89.0%	1.4
19	家の人と将来のことについて話すことがある。	68.1%	0.7	71.7%	4.3
20	家の人と学習について話をしている。	77.7%	0.6	80.6%	2.7
21	普段（月～金曜日）、1日当たりのテレビゲームをする時間 ※1時間未満	33.7%	1.7	30.2%	2.4
22	普段（月～金曜日）、1日当たりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間 ※1時間未満、持っていない	75.3%	2.8	73.8%	2.2

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

学ぶ意欲・授業について (No. 1～10)

- No. 1 の肯定的な回答の割合は、90%以上であり高い。学習のきまりを作成・活用するなどして学習規律の徹底を図る指導が行われているものと考えられる。
- No. 3 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。教材や発問を工夫し、児童の知的好奇心を大切にしたい指導が行われているものと考えられる。
- No. 2, 5, 6 の肯定的割合は、県平均を下回っており、課題解決への見通しを持たせたり、本時の学びや自己の変容を振り返ったりするなど、自ら課題を見つけ解決する学習過程を一層工夫し、主体的に学習に取り組む態度を育てる必要がある。
- No. 9 の肯定的な回答の割合は 50%前後に留まっているとともに、No. 10 については県平均を下回っている。自分の考えを話したり、書いたりして表現する力を育む指導を工夫するとともに、特に、文章にまとめて書く活動を充実させる必要がある。

家庭学習について (No.11～14)

- No. 11, 12 の肯定的な回答の割合について、県平均を下回っている。家庭学習の習慣化に向けた指導を一層推進していく必要があるものと考えられる。

自分自身のこと・家の人や先生について (No.15～20)

- No. 15, 17 の肯定的な回答の割合は県平均より高く、児童のよさや努力を認め、励ます指導の充実が図られているものと考えられる。
- No. 16 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。地域の教育資源を活用した学習や、社会の問題について考える学習が積極的に取り入れられているものと考えられる。
- No. 18～20 の肯定的な回答の割合は県平均より高い。家庭の理解や協力を得る取組が推進され、連携が図られているものと考えられる。

毎日の生活について (No.21, 22)

- No. 21, 22 のテレビゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンの使用時間について、1日1時間未満の児童の割合は県平均を上回っており、「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」に基づく取組などの一定の効果が表れているものと考えられる。

【学校質問調査】

調査結果（全 74 問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、県平均と 10 ポイント以上差があり（児童の様子については 4・5 年生ともに 10 ポイント以上差のあるもの）本市の特徴を表すものを取り上げた。（本調査問題及び全国学力・学習状況調査問題活用に関する設問を除く）
- ・ 肯定的な回答の割合は、「はい」「どちらかといえば、はい」と回答した割合の合計である。（No. 9～13 の肯定的な回答の割合は、「学校全体で」「どちらかといえば、学校全体で」の割合の合計）

＜児童の様子＞

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合			
		4 年生		5 年生	
		宇都宮市	県平均との差	宇都宮市	県平均との差
1	児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。	91.2%	10.7	94.1%	6.3
2	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている。	85.3%	3.6	92.7%	2.4
3	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかり伝えることができている。	92.7%	3.9	86.8%	△0.7
4	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	75.0%	△2.4	82.4%	4.9

＜学校の取組＞

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	県平均との差
5	児童の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている。	100%	2.4
6	自分の考えを文章にまとめる指導（記述）を重点的に行っている。	94.1%	3.3
7	授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている。	89.7%	0.4
8	「ねらい」「指導」「評価」のつながりを意識した授業づくりを行っている。	100%	1.5
9	児童の実態を把握して、宿題を出している。	95.6%	11.4
10	やり方を児童に十分説明して、宿題を出している。	95.6%	10.8
11	児童が自主的に取り組むような宿題を出している。	95.6%	12.1
12	宿題の内容に応じて評価し、児童に伝える工夫をしている。	85.3%	13.3
13	宿題の意図について保護者へ説明をしている。	95.6%	8.4
14	教職員間で、互いの授業を見せ合っている。	98.5%	4.9
15	学年やブロックなどの小集団で授業研究を行うなど、組織的に授業づくりに取り組んでいる。	100%	4.6
16	授業研究を伴う校内研修の回数 ※年間 4 回以上	76.5%	0.5
17	本調査実施後、調査対象学年の児童に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、課題の改善状況を確認している。	86.8%	△5.6
18	本調査実施後、調査対象学年の 1 学年下の児童に対して、全てまたは一部調査問題を解かせることで、習得状況を確認している。	78.0%	△3.5
19	調査結果の分析を全教職員で行っている。	100%	1.2

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

児童の様子 (No. 1～4)

- No. 1 の肯定的な回答の割合は、県平均を大きく上回っている。学習規律の維持徹底を図る指導が行われているものと考えられる。

授業における学習指導 (No. 5～8)

- No. 5, 8 の肯定的な回答の割合は 100% であり、特に高い。思考力や表現力を育むための言語活動の充実や、指導と評価の一体化を念頭に置いた授業づくりが意識されているものと考えられる。
- No. 6, 7 の肯定的な回答の割合は県平均を上回っている。自分の考えを話したり書いて文章にまとめたりすることにより、表現する力を育む指導の充実が図られているものと考えられる。

家庭学習の指導 (No. 9～13)

- No. 9～13 の肯定的な回答の割合は、県平均を上回っている。家庭学習の習慣化に向けた取組が推進されているものと考えられる。

校内研修の充実 (No. 14～16)

- No. 14, 15 の肯定的な回答の割合は 90% 以上であり特に高く、No. 16 の授業研究を伴う校内研修が 4 回を超える割合は、県平均を上回っている。各学校において目指す授業の方向性を共通理解した上で、授業力向上を目指す実践が定着しているものと考えられる。

学力調査の活用 (No. 17～19)

- No. 19 の肯定的な回答の割合は 100% であり、特に高い。調査結果をもとに成果や課題を把握し、学校全体で指導改善に生かす取組が推進されているものと考えられる。
- No. 17, 18 の肯定的な回答の割合は、県平均を下回っている。学習内容の習得状況や課題の改善状況を確認するために、学力調査の問題の活用を工夫する必要があると考えられる。